

防災・減災のページ

第108回中国新聞社と共催 @広島・山本学区

むすび塾

自主防災会連合会会長の岡野康紀さん(63)は「地震でブロック塀が倒れたら通れない。広い道優先で避難した方がいい」と分かったと語った。子育てサークル「MaMaほっけ」代表の坂本牧子さん(61)は「ベビーカーの避難も側溝や歩道の段差が危ない」

参加者が見守った「避難訓練の振り返り」で「道が狭く路面も悪い坂を車いすで下りるのは時間がかかる。車避難を検討する必要がある」「夜は暗く、ふたのない側溝に落ちる危険もある」といった意見が出た。

山本学区は広島市中心部から5km北に位置する。住宅の背後地には武田山(標高410m)があり、傾斜地に並ぶ家屋の間を細い道が縫うように通っている。2014年8月、21年8月に豪雨による土砂災害が発生した。

日常のつながり備えに



体力、健康づくりは避難にも役立つということで「百歳体操」に取り組む参加者=5日、広島市安佐南区の山本集会所

傾斜、細道豪雨時どうする

東日本大震災の教訓を将来の災害への備えに生かすため、河北新報社は5日、108回目の防災ワークショップ「むすび塾」を広島市安佐南区の山本学区で開いた。初めて中国新聞社と共催。要配慮者の支援を想定した「避難訓練を実施した後、土砂災害を念頭に語り合い、備えの課題と解決のヒントを探った。地方紙連携の共催むすび塾は2014年に開始し、17回目。



他の住民からも「避難開始のタイミングが分からない」「避難所に行きたくて」との声が上がった。

「むすび塾」は「避難は勇気と決断が必要。いざとなるとためらう」と不安を口にしていた。

難所で不自由な思いをする障害者や足腰の弱い高齢者が行きたがらない。今も悩んでいるという。訪問活動の中で、一緒に避難しようという声かけをしていることを説明した。

安佐南区にある広島経済大(21)は「地域の人の役に立つ活動を知りたい」と打ち明けた。

「ふるさと」を一緒に歌い、親交を深めた。

「ふるさと」を一緒に歌い、親交を深めた。

震災の教訓を土砂災害に生かす

事前の備え

地域で車避難のルールを決めておく

動き出しが早い段階で車も分散するね

要配慮者は早い段階で自主避難しましょう

避難計画作りには多くの住民に関わってもらおう

家庭や地域の防災を考える機会になるね

責任者が不在でも他の人が対応できるようにしよう

ハザードマップ

警報解除まで安全な場所にとどまろう

土砂災害の恐れがまだ高いから、家に帰るのはやめよう

雨はやんだね

できるだけ玄関先まで出る

一緒に逃げましょう

災害発生時

監修 減災・復興支援機構 イラスト さとうあけみ



要配慮者の避難のサポートなど地域の備えについてアイデアを出し合う参加者=5日、広島市安佐南区の山本集会所

「若者が地域に貢献したい」と打ち明けた。

「若者が地域に貢献したい」と打ち明けた。

「若者が地域に貢献したい」と打ち明けた。

地域と学生が協力 大切



避難訓練は、いろんなケースを想定して小規模で実施し、そのたびに反省会で情報を積み重ねることが大切だ。

大学も避難所に指定されている。学生が運営計画を作った。災害FMのほかに、校内の大型スクリーンで映画上映や、広い教室でレクリエーションをするなど、教員も巻き込んだ楽しい避難訓練も実施した。

山本学区は近隣に二つの大学がある。昨今は近所付き合いが希薄になっているが、住民と若者が対話を重ね、安心安全な住みやすい街を実現してほしい。

QRコードで接続すると、むすび塾参加者が唱歌「ふるさと」を斉唱する動画を見よう

自ら体験し行動を検証



天気の良い日中の避難訓練だったが、雨が降ればりスクが増える。街灯が少ないことも気になった。道路わきに庭用のソーラーライトを設置してはどうか。

土砂災害の危険性が低い場合、避難先は近くの公民館や集会所でもいい。福祉施設などと相談して、受け入れてもらう方法も。民間同士で話をした方がうまくいく。

工夫して、避難を楽しく文化を根付かせてほしい。雨が降りそうだったら、弁当と着替えを持って、一晩過ごす。集まるのが楽しくれば、交流も生まれる。大事なものは、避難をためらわず、早めに行動すること。避難所はゴールではなく、再建のスタート地点だ。

減災 復興支援機構専務理事

●消防団と連携 避難訓練をしたのは初めてだったが、気付くことが多く、28の自治会に広げてやってみる価値があると思った。炊き出しやテントの設置訓練と合わせて取り組みたい。昨年



の大雨では、消防団の音がけで避難する人が増えた。今後も消防団との連携が欠かせない=社会福祉協議会会長・小堀昭男さん(71)

●避難対策考える 山本学区は人口が多い。避難者が避難所に殺到すると運営が難しくなる。ブロック塀も多く、地震で倒れる可能性があるため、避難経路を含め対策を考えたい。昨年



の大雨では、避難所を2週間開設した。学生が率先してトイレ掃除をしてくれて、うれしかった=自主防災会連合会会長・岡野康紀さん(63)

●手助けをしたい ふたのない水路やブロック塀など危険箇所がいっぱいあった。歩道のでこぼこも気になった。夜は暗く、車いすやベビーカーでの避難は困難だ。子育て世代や高齢者の手助けをしたい。独りぼちをつくらないように、日頃のつながりが大事だと改めて感じた=子育てサークル「MaMaほっけ」代表・坂本牧子さん(61)



大雨が降る中、孫の家に避難した時は、歩くのも大変だった。自分の周りを見ても高齢者がとても多い。雨が降る前から、避難を始めないといけない=社会福祉協議会福祉委員・田中啓子さん(74)

●早めの行動重要 車いす避難の訓練では道路の中央を通ったが、本番では端を通ることになるし、雨なら路面が滑って難儀だろう。大雨が降る中、孫の家に避難した時は、歩くのも大変だった。自分の周りを見ても高齢者がとても多い。雨が降る前から、避難を始めないといけない=社会福祉協議会福祉委員・田中啓子さん(74)



昨年防災士になり、自主防災会で活動を始めたが、若者がいない。若者がもっと増えてほしい。土砂災害は局所的なので、住民が自分ごとに捉えられず、なかなか防災が全体に広がらない。一番の課題は避難の始め方。誰がいつどう避難するべきか、考えたい=自主防災会連合会会長・青木雄司さん(33)

●防災士に若い力 昨年防災士になり、自主防災会で活動を始めたが、若者がいない。若者がもっと増えてほしい。土砂災害は局所的なので、住民が自分ごとに捉えられず、なかなか防災が全体に広がらない。一番の課題は避難の始め方。誰がいつどう避難するべきか、考えたい=自主防災会連合会会長・青木雄司さん(33)



東日本大震災の語り部の話を聞き、知らないことがたくさんあった。震災と土砂災害をきっかけに2019年に防災士になった。地域には1人暮らしの高齢者や新住民が多い。防災はネットワークとコミュニケーションづくりを日頃から進めることが大事だと再認識した=自主防災会連合会会長・寺尾幸章さん(69)

●地域づくり大事 東日本大震災の語り部の話を聞き、知らないことがたくさんあった。震災と土砂災害をきっかけに2019年に防災士になった。地域には1人暮らしの高齢者や新住民が多い。防災はネットワークとコミュニケーションづくりを日頃から進めることが大事だと再認識した=自主防災会連合会会長・寺尾幸章さん(69)



避難訓練で車いすの移動を支援した。実際に災害が発生したとき、車や徒歩で避難する人がたくさんいる中で、狭い道路を車いすで移動できるのか疑問に感じた。地域づくりの一端で、仲間と一緒に避難所開設にも役に立つ足湯のイベントの開催を検討したい=広島経済大3年・都はるかさん(21)

●イベント開催も 避難訓練で車いすの移動を支援した。実際に災害が発生したとき、車や徒歩で避難する人がたくさんいる中で、狭い道路を車いすで移動できるのか疑問に感じた。地域づくりの一端で、仲間と一緒に避難所開設にも役に立つ足湯のイベントの開催を検討したい=広島経済大3年・都はるかさん(21)



車いすの避難介助をしたのは今回が初めて。歩道がでこぼこしていたり、敷地の出入り口に傾斜があったりして、バランスをとるのが難しかった。要配慮者の支援は日頃からの関わりが大事だが、なかなか接する機会がない=広島経済大3年・北本竣也さん(21)

●初の車いす介助 車いすの避難介助をしたのは今回が初めて。歩道がでこぼこしていたり、敷地の出入り口に傾斜があったりして、バランスをとるのが難しかった。要配慮者の支援は日頃からの関わりが大事だが、なかなか接する機会がない=広島経済大3年・北本竣也さん(21)



要配慮者の避難を考える。健康者が車いすに乗っているのに、アイマスクや耳栓をしたりして、自ら体験し、互いに行動を検証してみることが、課題がたくさん見つかるはずだ。

宮下 加奈さん(53)